

地元建設業者と自治体が連携！ 村営バスと乗合いタクシーの交通システムを構築

民間バスの廃止とタクシー業者の撤退という状況下、交通弱者の足を確保すべく地元の建設業7社が連携し「NPO法人ふるさとづくり・やらまいか」を設立。村営バスと有償運送サービスによって高齢者や障害者、子供達など交通弱者の移動を格安で行う。全国初の地域密着型モデル事業として地域に貢献している。



背景と課題

地域交通の弱体化

長野県中川村は松本市の南方およそ60km、南信州地方に位置し、屈曲蛇行して南流する天竜川により地区が二分され、河岸段丘に開けた山村である。土地の起伏が多く、役場から最寄りの鉄道駅までは8km近く離れており、何年も前に民間バスは廃止、タクシー業者も営業所が撤退してしまった。そのため自動車の運転が困難な高齢者や障害者にとっては、日常的な買い物や通院も困難な状況であり、小学生は学校までおよそ6～7kmの通学路を通わなければならない、その道のりの長さや、通学時の安全の確保など、交通弱者にとっては多くの面で日常の移動が厳しい状況にあった。



取組のきっかけ

不況対策の新事業

そのような悩みを解消しようと、まず村役場が新交通システムの構築に立ち上がった。当時の村長が発案者となり、村営巡回バス、NPO法人の自家用車による有償運送事業、福祉輸送サービスの3つを検討した。この過程で生まれたのが、地元建設業者7社が連携して設立した「NPO法人ふるさとづくり・やらまいか」である。新交通システムのうち村営巡回バスの受託とNPO自家用車有償運送事業を担っている。

当時、建設業の景気は悪く「社員をクビにするくらいなら新しい事業を始めてみよう」と考え、村の思惑と合致した。村内のすべての建設会社7社が協力し、その連携のよさと大型自動車免許を社員の多くが所有していることも取組を実施する上で大きな要因となった。

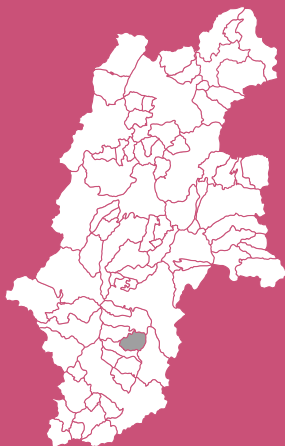


NPO法人 ふるさとづくり・ やらまいか

所在地：〒399-3802
長野県上伊那郡中川村
大草3950番地
連絡先：0265-88-3057
(田島建設内)
FAX：0265-88-3181

長野県中川村

総人口：5,347人
高齢化率：27.9%
世帯数：1,547世帯
総面積：77.05 km²





取組 1

デマンドタクシーによる有償運送サービス

2004年10月から正式に運行を始めた新交通システム。基本料金は300円、そこにエリアごとに定められたエリア料金を加算した金額が乗車運賃となる。最も遠い場所へ移動しても約1,400円で収まり、一般的なタクシーの料金設定に比べて約半額である。

会員登録制で、スクールバスの都合が付かない子供たちは学校の許可を得て乗合いタクシーに乗って通学をしている。

〔運行日時〕 月曜から金曜の午前9時から午後9時

〔運行エリア〕 原則中川村内

(病院及び駅までの運送を除く)

〔予約〕 利用日の2日前までの予約制

取組 2

村営巡回バスの運行受託

地域のバス需要をNPOと行政、住民が協働し、綿密な検討を重ねて運行ダイヤ、ルートを構築した。例えば、行きは巡回バス、帰りはスクールバスというように運行効率を高めたり、利用者の都合によってルート上のバス停以外での停車にも対応可能というような地域密着型ならではのサービスも行っている。料金は1回200円、村内の集落を満遍なく巡り、車輦も山道に適応したサイズ・性能となっている。



成果

交通弱者の足を確保

高齢者や障害者、子供などの交通弱者の地域内移動が格安で可能となった。

利用者の増加

地域密着型サービスと運行ダイヤ・ルートの効率化によって利用者が増加した。

雇用の確保と地域貢献

村民から必要とされるサービスを提供することで、雇用の確保が図られるだけでなく、地域活性化に貢献できるやりがいを感じている。また、放送局が当該事業を紹介してくれたこともモチベーションのアップにつながっている。

通学の安心

小学生における、長い距離の通学という体力的な厳しさと、児童犯罪の危険等に対する懸念が解消された。

情報交換によるサービスの向上

狭い地域ということも要因となり、サービスの一つ一つについて利用者の声が届き、それに応じて各業者も改善を図るといった循環向上型サービスとなっている。

長野県の道路整備事業誘発

本取組に対して障害となる狭い道路の拡幅工事などに県の事業が導入された。